

採点基準

問 1

1. 学術的な定義通りであるかどうか（10点）。
2. ジョブ型雇用では、メンバーシップ型雇用と異なり明確な職務規定に基づく採用及び業務指示が中心となる。とすると、社員は自分の決められた職務だけに忠実であろうとする傾向が生まれ、組織市民行動によって自発的に他の業務もカバーしようとするコミットメントの意識が薄れがちになる。結果的に組織運営上の効率が失われ、組織パフォーマンスが低下するというリスクが生じる。こうした内容の叙述または同概念の当てはめに関してロジカルな分析がなされていれば満点（15点）。

問 2

1. 学術的な定義通りであるかどうか（10点）。
2. 男性中心の職場であると、女性がそのコミュニティに入って業務の初歩を覚え、徐々に複雑でレベルの高い業務をこなしながら、スキルを修得し、マネジメント階層の中核に進んでいくという正統的周辺参加の学習プロセスが阻害されやすい。結果として女性のキャリア形成が組織階層上、周縁的なレベルに留まり続け、男性の円滑なキャリア形成との間で格差が生じることが推測される。こうした内容の叙述または同概念の当てはめに関してロジカルな分析がなされていれば満点（15点）。

経営学分野において近年注目される理論コンセプトを取り上げ、かつ応用できるかどうかを問う、全体的にやや難度の高い設問としています。